

八戸の夏楽しんで

七夕まつりあす開幕



60年以上続く八戸市の夏の風物詩「第64回はちのへ七夕まつり」(主催・八戸商店街連盟八戸七夕まつり実行委員会)が15日、同市三日町や十三日町、湊町本町で開幕する。趣向を凝らした七夕飾りやさまざまな催しだが、昔の商店街を彩る本番に向け、関係者が準備を進めている。中心街で18日まで、湊町本町では17日まで。(田中周菜)

中心街では、企業や学校などが出品した大型の吹き流し23本が、大勢の市民らでにぎわう通りにたなびく。「はっち」では、幼児らが作った小さな七夕飾り20本を展示する。

七夕飾り制作する学生12日、八戸学院短大

00個超のツバキの花が見どころ。配色にも工夫を凝らし、グラデーションが鮮やかだ。リーダーの一人の森越空さん(19)は「みんなで力を合わせた自信作。大勢に見てもらえたらうれしい」と本番を心待ちにしている。

八学短大生飾り制作

「はちのへ七夕まつり」では八戸学院短大幼児保育学科の1年生107人が、「八戸の夏をイメージした七夕飾り4本を制作して参加する。学生ならで

はのユニークな発想で中心街を彩り、祭りを盛り上げる。同学科の七夕飾りの出品は前年に続き2年連続で、6月初旬から四つ

(金澤一能)